

資源回復計画推進事業(抄録)

-小型底曳網の包括的資源回復計画策定のための調査研究-

池脇義弘・守岡佐保

徳島県では、紀伊水道における小型底曳網漁業を対象とした包括的資源回復計画の策定を目指している。そこで、計画策定に必要な基礎的資料を得るための試験調査を実施した。

なお、事業内容の詳細については、平成17年度徳島県資源回復計画推進事業調査研究事業報告書(<http://www.green.pref.tokushima.jp/suisan/books/jiho/h17s-kaifuku.pdf>)を参照されたい。

既存の資源管理対象種のモニタリング

既存の資源管理対象種のなかでも小型底曳網漁業の主要な漁獲対象種であるヒラメとクルマエビについてその漁獲実態をモニタリング調査した。調査した漁協は、北灘、徳

島市、椿泊漁協(漁獲統計調査等)、北泊漁協(小型底曳網標本船調査)、福村、牟岐町漁協(ヒラメ漁獲量調査)であった。ヒラメ、クルマエビともに最近十数年は漁獲量は減少傾向にあったが、ヒラメは、2003年以降の3年間に限ってみるとやや増加傾向もみられた。

紀伊水道における小型底曳網漁船減船および休漁日設定の効果把握調査

資源特性値が明らかなクルマエビ、ヒラメを対象に、紀伊水道の小型底曳網漁業において、減船および休漁日を設定した場合の効果についてシミュレーションをおこなった。

その結果、両種ともに何も対策をしない場合の漁獲量は減少の一途をたどるが、30隻減船し且つ週1日の休漁を実施することによりその減少に歯止めがかかり、将来10年間にわたって漁獲量はほぼ一定で推移することが予想された。